

資料 2

未定稿

飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (素 案)

目次

第1章 はじめに

- 1. 総合戦略策定の背景と目的..... 1
- 2. 総合戦略の位置づけと対象期間..... 1
- 3. 総合戦略の進捗管理..... 1

第2章 基本的視点

- 1. 人口対策における基本的視点..... 3
- 2. 飯塚市の優位性（強み）や特性..... 5

第3章 基本目標と施策の基本的方向

- 1. 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」..... 7
- 2. 基本目標 8
- 3. 施策の基本的方向 10
 - I 大学力と連携し、地域経済を牽引するまちづくり..... 10
 - II 安心して出産・子育てができるまちづくり..... 12
 - III 次代を担うひとを育てる学びのまちづくり..... 14
 - IV 健幸で魅力あふれるまちづくり..... 16

第1章 はじめに

1. 総合戦略策定の背景と目的

飯塚市では、2007（平成19）年9月に第1次飯塚市総合計画を策定し、「市民と行政が協働で創るまち」、「活力とうるおいのあるまち」、「やさしさと豊かな心が育つまち」、「きれいな水と緑のあるまち」の4つの基本理念のもと、施策の大綱、戦略プロジェクトに基づく各種の施策や事業を推進しています。

一方、我が国では、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、2014（平成26）年に「まち・ひと・しごと創生法」が施行されました。

2008（平成20）年に始まった我が国の人口減少は、今後、加速度的に進む見込みであり、人口減少による消費や経済力の低下は、我が国の経済社会に対して大きな重荷となることから、まち・ひと・しごと創生では、人口減少克服と地方創生をあわせて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持することをめざしています。

また、国は、日本の人口の現状と将来の姿を示し、人口問題に関する国民の認識の共有をめざすとともに、今後、取り組むべき将来の方向を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえ、2015（平成27）年度を初年度とする今後5か年の政策目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定し、まち・ひと・しごと創生に向けた取り組みを推進しています。

さらに、「まち・ひと・しごと創生法」では、地方自治体において、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、地域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を定めるよう努めることになっています。

そこで、本市において、少子高齢化・人口減少等の課題に対応し、持続的な地域を創生するとともに、筑豊地域の牽引役を担っていくため「飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

2. 総合戦略の位置づけと対象期間

「飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」という。）は、「まち・ひと・しごと創生法」の規定に基づき、国及び県の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、市の実情に即した基本的な計画として策定します。

対象期間は国の総合戦略を勘案しつつ、効果的な施策を集中的に実施していく観点から、対象期間は、2015（平成27）年度～2019（平成31）年度の5年間とします。

3. 総合戦略の進捗管理

（1）KPI（重要業績評価指標）に基づく進捗管理

総合戦略に掲げる施策の進捗度を客観的に把握するため、KPI（重要業績評価指標）を設定します。KPIについては、可能な限り数値による目標値を設定することとし、毎年度の戦略の進捗管理の基本データとして活用します。

(2) P D C Aサイクルによる戦略の推進

総合戦略を着実に推進するため、毎年度、戦略の実施状況を検証し、必要に応じて見直しを行う策定（P l a n）、推進（D o）、点検・評価（C h e c k）、改善（A c t i o n）のP D C Aサイクルを確立します。

(3) 産官学金労言による推進体制の強化

総合戦略を産官学金労言の連携のもとで効果的に推進するため、「産官学金労言」などの外部有識者が政策効果を検証する場を設け、P D C Aサイクルによる実効性を高めていきます。

第2章 基本的視点

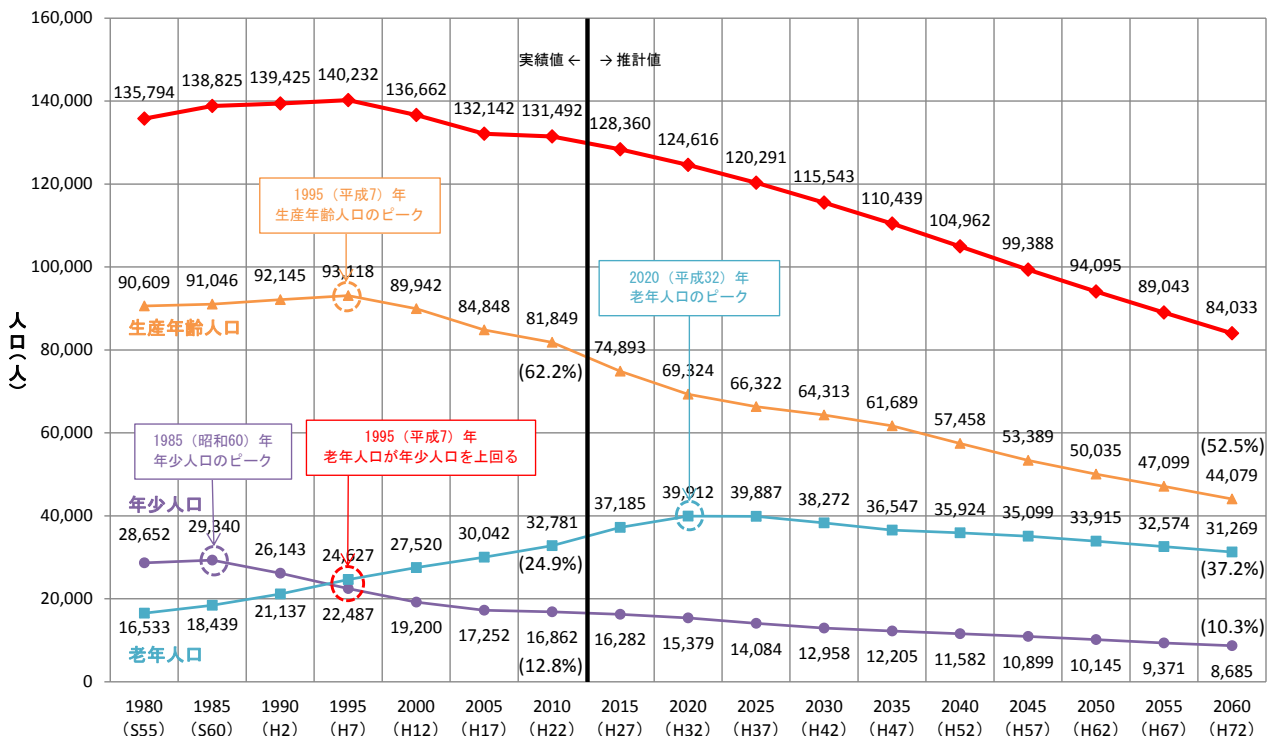
1. 人口対策における基本的視点

本市の人口は、1995（平成7）年の140,232人をピークに減少傾向となっています。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計及び社人研推計に準じた推計によると、2040（平成52）年の人口は104,962人と予測されており、2010（平成22）年の人口（131,492人）に対して26,530人減少する見込みです。また、2060（平成72）年の人口は84,033人と予測されており、2010（平成22）年の人口に対して47,459人減少する見込みです。

また、年齢3区分別人口をみると、年少人口（0歳～14歳の人口）、生産年齢人口（15歳～64歳の人口）ともに減少傾向にあり、今後も減少傾向が続く見込みです。老年人口（65歳以上の人口）は増加傾向にありますが、2020（平成32）年の39,912人をピークに減少に転じる見込みです。

このように、本市においても人口減少、少子化、高齢化が進行しており、これらへの対応が喫緊の課題となっています。（なお、人口に関する詳しい内容は「飯塚市人口ビジョン」をご参照ください。）

年齢3区分別人口の推移（飯塚市全体）



（出典）実績値：総務省「国勢調査」より集計

推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」より集計

2040年以降は社人研推計に準じて推計

そこで、人口問題を克服するために、若い世代が希望どおりに結婚し子どもが持てるような収入の確保策など、子どもを産み育てやすい環境を整備し、教育の充実と就業機会の拡大を図りつつ、若年層の転入促進や転出抑制の効果が期待される施策とともに、子どもから高齢者まで健康で安心して暮らせる定住促進施策に取り組むなど、次の3つの基本的視点（将来の方向性）に基づき、施策を推進することとします。

基本的視点（将来の方向性）

- ① 若者世代の就労と子どもを産み育てやすい環境を整備する
- ② 教育の充実、地域特性にあった就業機会の拡大を図り、
人口の流出に歯止めをかける
- ③ 人口減少・高齢化社会に対応した魅力ある都市を構築する

2. 飯塚市の優位性(強み)や特性

地方創生を实のあるものにしていくためには、本市の優位性(強み)や特性を活かしながら、時代の流れに沿った取り組みを進めていくことが必要となることから、ここでは本市の優位性(強み)や特性について整理します。

(1) 福岡都市圏・北九州都市圏との近接性

本市は、福岡県のほぼ中央に位置し、北九州市と筑紫野市を結ぶ国道200号、福岡市と苅田町を結ぶ国道201号及び大分県日田市と北九州市を結ぶ国道211号が通るとともに、J R黒崎駅と博多駅を結ぶ福北ゆたか線、J R田川後藤寺駅と新飯塚駅を結ぶ後藤寺線及びJ R桂川駅と原田駅を結ぶ原田



線が通っており、交通の要衝を形成しています。

また、J R新飯塚駅から博多駅まで快速電車で約45分、J R小倉駅まで同じく約60分の距離にあり、福岡都市圏及び北九州都市圏の通勤・通学圏内となっています。

このように、本市は、交通の要衝を形成するとともに、福岡都市圏及び北九州都市圏とのアクセス性に恵まれています。

(2) 大学や研究開発機関の立地

本市は、九州工業大学、近畿大学、近畿大学九州短期大学の3つの大学が立地しています。3つの大学で合わせて約4,200人の学生と約400人の教職員がおり、県内でも有数の学園都市を形成するとともに、高度な研究開発や将来を担う人材の育成が行われています。

また、理工系の大学の集積等を背景に、産学連携のコーディネートを行う福岡県立飯塚研究開発センターや高度情報処理技術者の育成を行う(株)福岡ソフトウェアセンターが設立され、本市においてもインキュベーション施設と



して新産業創出支援センター(e-ZUKAトライバレーセンター)を設置するなど、研究開発と産業振興の拠点が集積しています。2002(平成14)年1月には「e-ZUKAトライバレー構想」を発表し、2003(平成15)年に「飯塚アジアIT特区」として経済特区の指定を受けるなど、知的資産を核とした新産業創出が進められています。

さらに、2012(平成24)年4月には、九州工業大学において、アジアにおける教育研究交流及び研究開発の拠点として、また、医工学連携の中心的拠点としての機能を担う、バイオメディカルインフォマティクス研究開発センターが開設されています。

(3) 充実した医療と健幸まちづくりの取り組み

本市は、医療施設が充実しており、病院と一般診療所を合わせて 147 施設が立地しています。

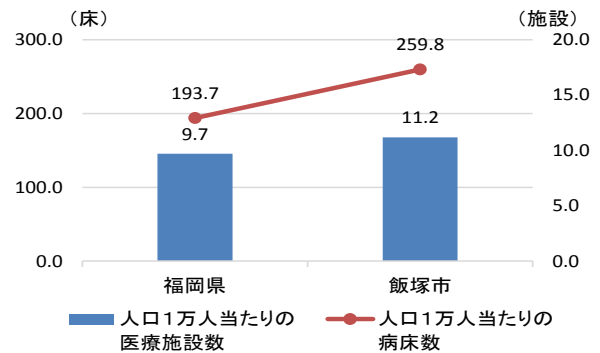
さらに、第三次救急医療施設（重篤な救急患者に対し高度な救急医療を総合的に提供する医療施設）として飯塚病院が指定されています。また、飯塚病院は、リスクの高い妊産婦や新生児などに高度な医療を提供する「総合周産期母子医療センター」に指定されており、筑豊地域の医療の拠点を担っています。

本市では、少子高齢社会に対応した誰もが歩いて暮らし、市民が健康で生きがいを持ち豊かに暮らせる都市の実現を図るため、平成 23 年 7 月 15

日に「スマートウェルネスシティ首長研究会」に加入し、健康長寿社会を創造する施策を研究しています。

健康に関心のある人だけが参加するこれまでの施策から脱却し、市民の誰もが健康で生きがいを持ち、安全安心で豊かな生活を営むことができることをこれからのまちづくりの施策と捉え、平成 26 年 3 月に地域の実情や特性を反映した「いづか健幸都市基本計画」を策定し、「拠点・コミュニティづくり」、「健幸づくり」、「公共交通ネットワークづくり」を方針に掲げ、健幸都市づくりを推進しています。

医療施設数・病床数の状況



(出典) 地域保健医療基礎調査 (H21)及び国勢調査 (H22) より集計

第3章 基本目標と施策の基本的方向

1. 国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」

国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、基本的な考え方として、①人口減少と地域経済縮小の克服、②まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を定めています。

また、人口減少の克服と地方創生を確実に実現するため、政策5原則（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）に基づき、施策を展開することになっています。

さらに、4つの基本目標を設定し、地方における様々な政策による効果を集約し、人口減少に歯止めをかけ、東京一極集中の是正を着実に進めていくことになっています。

■ 基本的な考え方

- ①人口減少と地域経済縮小の克服
- ②まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

■ まち・ひと・しごとの創生に向けた政策5原則

- ①自立性
 - ・ 構造的な問題に対処し、地方公共団体、民間事業者、個人等の自立につなげる。
- ②将来性
 - ・ 地方が自主的かつ主体的に、夢を持って前向きに取り組むことを支援する。
- ③地域性
 - ・ 各地域の実態に合った施策を支援。国は支援の受け手側の視点に立って支援。
- ④直接性
 - ・ 最大限の成果をあげるため、直接的に支援する施策を集中的に実施する。
- ⑤結果重視
 - ・ PDCAメカニズムの下、具体的な数値目標を設定し、効果検証と改善を実施する。

■ 基本目標

- 基本目標 1 地方における安定した雇用を創出する
- 基本目標 2 地方への新しいひとの流れをつくる
- 基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 基本目標 4 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

2. 基本目標

飯塚市における4つの基本目標

本市では、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえるとともに、本市の優位性（強み）や特性である「福岡都市圏・北九州都市圏との近接性」「大学や研究開発機関の立地」「充実した医療と健康まちづくりの取り組み」を活かし、次の4分野を基本目標に設定し、市内に「しごと」と「ひと」の好循環を生み出すための取り組みを着実に進めていきます。

基本目標Ⅰ 大学力と連携し、地域経済を牽引するまちづくり

大学や産業支援機関、研究機関、医療機関等が集積している強みを活かした医工学連携をはじめとした新産業の創出、地場企業の育成と企業の立地を推進するなど、若者を含めた新たな雇用の創出と地域活性化を図ります。

また、まちづくりの各分野において大学の知的資産を活用するとともに、大学生が活躍できる場づくりに取り組みます。

基本目標Ⅱ 安心して出産・子育てができるまちづくり

福岡・北九州都市圏との近接性を活かし、男女の出会いの機会を設けるとともに、子育て世代の定住を促進するため、妊娠期から子育て期にわたる総合的な相談支援体制の整備と多様化するニーズに応じた保育サービスの充実を図ります。

また、男女がともに仕事と家庭、子育て、地域活動などを両立できるワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みを推進します。

基本目標Ⅲ 次代を担うひとを育てる学びのまちづくり

学力向上を重点課題とし、その土台となる豊かな人間性の育成と体力の向上をめざした小中一貫教育の推進、ICTの利活用や特色ある学校教育の充実を進め、子どもを産み、育てやすい環境の整備に取り組めます。

また、友好都市サニーベール市との交流事業をはじめとした国際交流事業の推進に取り組み、国際的に活躍できるグローバル人材の育成を図ります。

さらに、高校から大学への高等教育支援と就学支援を行い、時代を担う人材の育成を図ります。

基本目標Ⅳ 健幸で魅力あふれるまちづくり

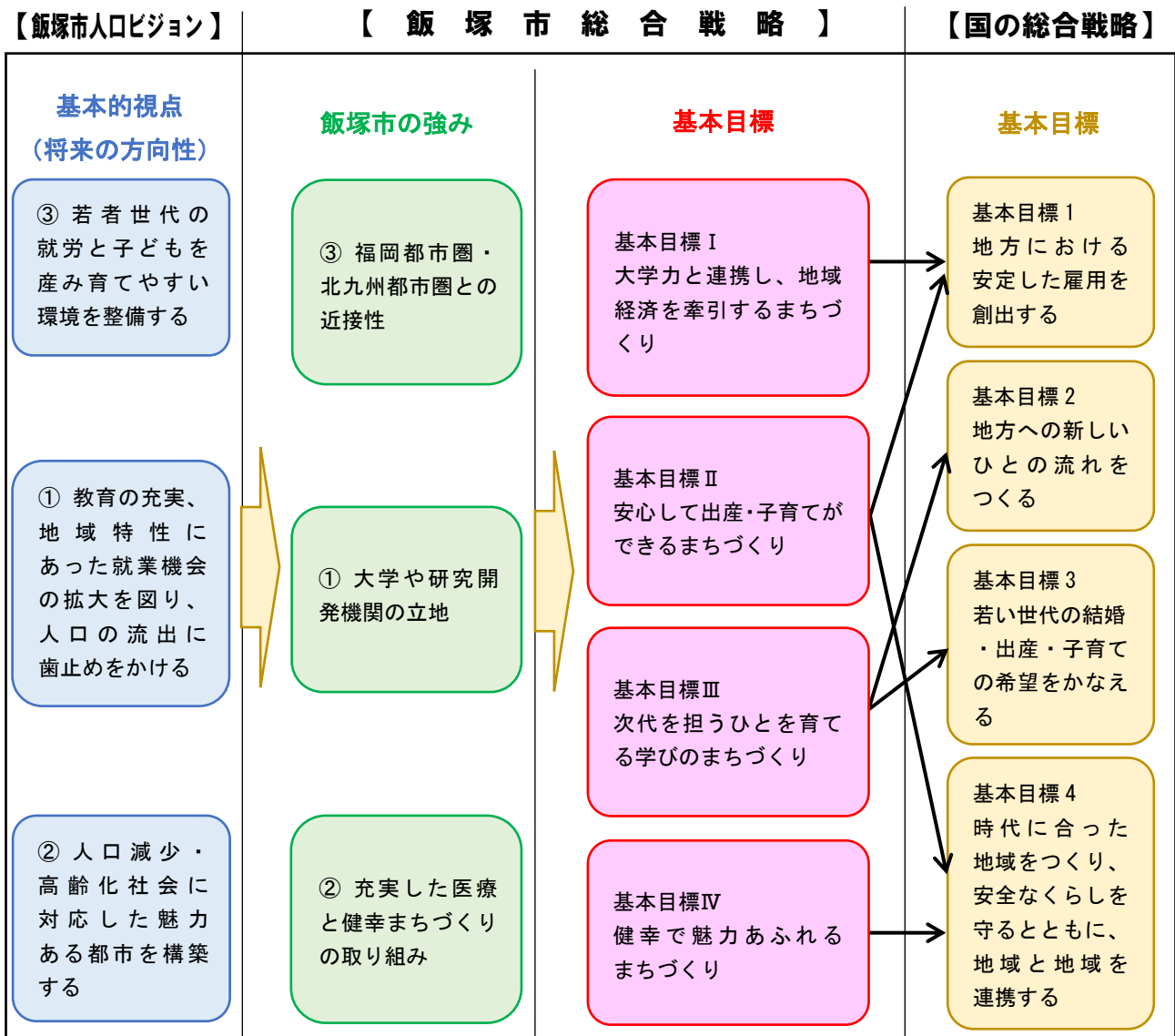
本市のまちづくりの中核に位置づけられている、すべての人が健康でいきいきと笑顔で暮らせる「健幸都市」の実現に向け、長期的かつ横断的な視点に立った施策を推進するとともに、心豊かでいきいきと暮らせる健康長寿社会の形成に取り組みます。

本市と福岡都市圏を結ぶ広域交通を活かし、主要鉄道駅やバスターミナルの交通結節機能の強化や、交通結節点と都市機能施設、観光交流施設、市内各地域を結ぶ交通ネットワークの強化を図り、アクセス性や周遊性の向上、各地域の生活利便性の向上を図るため、コンパクトなまちづくりに取り組みます。

あわせて、本市の魅力を効果的に発信するシティプロモーションを推進するとともに、福岡都市圏や北九州都市圏との近接性を活かし、交流人口拡大に向けた観光振興、移住・定住化の促進に向けた取り組みを進めます。

さらに、地域コミュニティを醸成し、地域の繋がりを育むためまちづくり協議会との連携を進め、「交流・コミュニケーション」によって地域の活力が持続する安全・安心の協働のまちづくりに取り組みます。

国及び飯塚市の総合戦略における基本目標体系図



3. 施策の基本的方向

基本目標Ⅰ 大学力と連携し、地域経済を牽引するまちづくり

(1) 基本的方向

大学や産業支援機関、研究機関、医療機関等が集積している強みを活かした医工学連携をはじめとした新産業の創出、地場企業の育成と企業の立地を推進するなど、若者を含めた新たな雇用の創出と地域活性化を図ります。

また、まちづくりの各分野において大学の知的資産を活用するとともに、大学生が活躍できる場づくりに取り組みます。

(2) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

★は新規事業

① 医工学連携をはじめとした新産業の創出

飯塚市の地域特性を活かしながら、成長産業分野の1つである医療に関して、医療機器や医療技術の研究開発を促進し、地域企業が積極的に参入できるよう、医工学連携を推進します。また、新技術・新製品、新サービスの創出に向けた支援体制の強化を進め、ものづくりを核とした産学・産産連携を加速します。

【具体的な事業】

○医工学連携推進事業

医療機関、大学等研究機関、地域企業のマッチングによる医療機器・ヘルスケア商品等の開発

★新産業創出支援補助事業

試作品開発・人材育成等を行うための共同開発施設を開設・運営する企業等への補助

【重要業績評価指標（KPI）】

・5年間の新規プロジェクト活動支援件数

② 地場企業の育成・企業立地の促進

地場企業や大学間の交流機会の創出や企業の情報発信強化や販路開拓・人材育成支援事業を進め、地場企業の育成を図るとともに、飯塚市の地域特性を活かしながら、企業の立地促進に取り組み、企業と求職者のマッチング支援、新商品開発支援等により、地域経済の活性化を図ります。

【具体的な事業】

○地域産品ブランド化支援事業

筑穂牛や地元特産米などをブランドとしてPR、販売を促進

○企業立地促進補助事業

事業所の新設・移設・増設に対する補助

★地域企業魅力発見事業

広報誌による市内中小企業等の魅力PR、合同会社説明会の実施

★市内ITベンチャー企業への支援

市内ITベンチャー企業の販路開拓を支援

【重要業績評価指標(KPI)】

- ・企業立地（新設・移設・増設）件数
- ・新商品開発支援件数
- ・マッチングによる就職人数

③ 創業の支援

関係機関と連携しながら、総合的な創業支援を強化することにより、若者を含めた新たな雇用の創出と地域活性化を図ります。また、中心市街地の空き店舗等を活用した創業支援等を通じて、地域資源の利活用を図ります。

【具体的な事業】

○がんばる農業応援事業

新規就農者人材発掘・定着促進のための研修開催、農地賃借料・農業用機械導入に対する助成

★企業力アップのための産学交流事業

ワーキング・交流スペースの整備・提供

★創業支援プログラム推進事業

県との協力・連携による都市圏のUターン創業者を対象とした創業支援

【重要業績評価指標(KPI)】

- ・5年間の創業支援件数

④ 大学との連携推進

3大学との連携を積極的に進め、大学の知的資産や人材等を活用したまちづくりの推進を図ります。

【具体的な事業】

○市内大学による地方創生事業への助成

大学と企業等の共同研究創出、地域との連携による地域貢献を目的とした、市内大学に対する助成

○学生向けビジネスワークショップ事業

市内大学生を対象として、地域経済活性化を担う人材育成を目的とした講座の開催

【重要業績評価指標(KPI)】

- ・5年間の大学との連携事業件数

基本目標II 安心して出産・子育てができるまちづくり

(1) 基本的方向

福岡・北九州都市圏との近接性を活かし、男女の出会いの機会を設けるとともに、子育て世代の定住を促進するため、妊娠期から子育て期にわたる総合的な相談支援体制の整備と多様化するニーズに応じた保育サービスの充実を図ります。

また、男女がともに仕事と家庭、子育て、地域活動などを両立できるワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みを推進します。

(2) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

★は新規事業

① 婚活支援

未婚男女の出会いのきっかけをつくり、男女のマッチング支援を通じて、定住化と少子化対策に取り組めます。

【具体的な事業】

○出会いの場創出支援事業

婚活支援のためのイベント・セミナー等開催

【重要業績評価指標(KPI)】

- ・婚活イベントでのマッチングにおける成婚割合
- ・婚活イベントに満足している人の割合

② 妊娠・出産・子育ての一貫した支援

妊娠・出産・子育てについて、関係機関と連携した相談支援体制の整備、産前産後の支援など、希望や状況に応じて選択できるように、一貫した支援の充実に努めます。

【具体的な事業】

○子ども医療費助成事業

子ども（小3までの外来診療、中3までの入院診療）の医療費を一部助成

○子育てガイドブック事業

男女を問わない育児休暇の取得や短時間勤務の推進を目的とした、子育てに関するガイドブックの作成

★ハロー赤ちゃん事業

出産前からの小児科医訪問等、相談体制を充実

★三世帯同居等推進事業

親世帯・子世帯がともに安心できる、同居や近居を促進する制度・事業の実施

【重要業績評価指標(KPI)】

- ・子ども医療延べ利用者数
- ・子育て支援事業に満足している人の割合

③ 子育てしやすい環境の充実

保護者が安心して子どもを預けることができるように、保育所・認定こども園や子育てプラザ等の子育て支援施設の整備や保育士の人材確保対策、延長保育や一時預り保育事業など、子育て環境の整備を推進します。

【具体的な事業】

○子育てプラザ整備事業

育児相談や親子交流の場となる子育てプラザを設置

★保育所等の受入体制の充実

保育所での受入体制充実のための、保育士の人材確保策等推進

【重要業績評価指標(KPI)】

- ・待機児童ゼロを継続
- ・放課後児童クラブ延べ利用児童数
- ・子育て支援センター等利用者数

④ 仕事と生活の調和に向けた支援

子どもの健やかな育ちや子どもと向き合える時間を確保できるよう、男女がともに仕事と家庭、子育て、地域活動などを両立できるワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みを推進します。

【具体的な事業】

○休日等子育て支援事業

休日等に保護者の仕事、冠婚葬祭、病気・介護等の理由により家庭でみるできない場合、小学1年生から小学6年生までの児童を対象に預かりを実施

○仕事と子育ての両立支援セミナー

復職経験などを題材にした、仕事と家庭・子育てを両立させるためのセミナーを開催

【重要業績評価指標(KPI)】

- ・休日子育て支援事業利用件数
- ・子育て応援宣言企業の認定数

基本目標Ⅲ 次代を担うひとを育てる学びのまちづくり

(1) 基本的方向

学力向上を重点課題とし、その土台となる豊かな人間性の育成と体力の向上をめざした小中一貫教育の推進、ICTの活用や特色ある学校教育の充実を進め、子どもを産み、育てやすい環境の整備に取り組みます。

また、友好都市サニーベール市との交流事業をはじめとした国際交流事業の推進に取り組み、国際的に活躍できるグローバル人材の育成を図ります。

さらに、高校から大学への高等教育支援と就学支援を行い、次代を担う人材の育成を図ります。

(2) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

★は新規事業

① 特色ある学校教育の推進

子どもの健やかな成長に向け、小中一貫教育の推進を図るなど、教育環境の整備とともに、多層指導モデルMIM、協調学習等、特色ある学校教育を進め、「かしこく」「やさしく」「たくましい」子どもの育成に努めます。

【具体的な事業】

○小中一貫教育推進事業

小中一貫教育を推進するため小中学校を統合、9年間を見通した教育を推進

○多層指導モデルMIM（ミム）、協調学習の推進

楽しみながら読みの力を育む「MIM」、主体的で協働的な学びである「協調学習」等の推進

【重要業績評価指標（KPI）】

・授業以外の勉強時間 1時間以上の児童生徒割合

② 学力レベルの向上

ICT機器導入による効果的な学習を充実させ、児童生徒の能力の向上を図るとともに、徹底反復学習、現役大学生による学習支援等を通じて、社会で生活していく上での基礎となる確かな学力を育みます。

【具体的な事業】

○徹底反復学習の推進

漢字の先取り学習や音読計算、百ます計算等、基礎・基本の「徹底反復学習」の推進

★ICT教育の推進

タブレット端末等のICT機器を活用できる学習環境の整備

【重要業績評価指標(KPI)】

ICT機器(タブレット及び電子黒板)導入校数

③ 国際交流を通じたひとづくり

友好都市サニーベール市との交流事業をはじめとした国際交流事業の推進を図るとともに、英語力などの実践的な学習を充実させることで、国際的に活躍できるグローバル人材の育成を図ります。

【具体的な事業】

○国際交流推進事業

サニーベールをはじめとした国際交流(中学生海外派遣、大人の交流)等の推進

★小学校英語教育推進事業

小学校における英会話レッスンを取り入れた授業を通して、聞く・話すことを中心とした英語の初歩的な運用能力を養成

【重要業績評価指標(KPI)】

- ・友好都市交流事業参加者数
- ・英語が好きな児童の割合

④ 高等教育支援

高校から大学への高等教育支援を行い、活力ある学園都市の形成を図ります。また、高等教育への就学支援により、次代を担う人材の育成を図ります。

【具体的な事業】

○奨学金制度

経済的理由により修学困難な者(高校、高等専門学校、専修学校、短期大学、大学在学者)に対する学資金の貸付

【重要業績評価指標(KPI)】

- ・奨学金交付件数

基本目標Ⅳ 健幸で魅力あふれるまちづくり

(1) 基本的方向

本市のまちづくりの中核に位置づけられている、すべての人が健康でいきいきと笑顔で暮らせる「健幸都市」の実現に向け、長期的かつ横断的な視点に立った施策を推進するとともに、心豊かでいきいきと暮らせる健康長寿社会の形成に取り組みます。

本市と福岡都市圏を結ぶ広域交通を活かし、主要鉄道駅やバスターミナルの交通結節機能の強化や、交通結節点と都市機能施設、観光交流施設、観光交流施設、市内各地域を結ぶ交通ネットワークの強化を図り、アクセス性や周遊性の向上、各地域の生活利便性の向上を図るため、コンパクトなまちづくりに取り組みます。

あわせて、本市の魅力を効果的に発信するシティプロモーションを推進するとともに、福岡都市圏や北九州都市圏との近接性を活かし、交流人口拡大に向けた観光振興、移住・定住化の促進に向けた取り組みを進めます。

さらに、地域コミュニティを醸成し、地域の繋がりを育むためまちづくり協議会との連携を進め、「交流・コミュニケーション」によって地域の活力が持続する安全・安心の協働のまちづくりに取り組みます。

(2) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

★は新規事業

① 健幸都市いづかの実現

すべての人が健康でいきいきと笑顔で暮らせる「健幸都市」の実現に向け、健幸プラザの整備、ウォーキングコースの設置及びウォーキングイベントの実施等、ハード・ソフト両面から身近に運動できる環境の整備に取り組むとともに、「地域づくり」「高齢者の生きがいづくり」「スポーツ振興」など、幅広い観点から横断的かつ長期的視点に立った健康長寿社会の形成を進めます。

また、「住みたいまち 住み続けたいまち」であり続けるため、本市の特性である医療の集積を活かし、医療・介護・福祉の総合的な連携による地域の包括的な支援・サービス体制の構築を推進します。

【具体的な事業】

○地域包括ケア拠点事業

住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域の包括的な支援・サービス体制構築を推進するための拠点を整備

○健幸都市推進事業

住民健診の実施、健幸づくり拠点の充実、いづか版健幸体操の創作、健幸ウォーキング等イベントの実施による住民の健康意識の向上、まちづくり協議会をはじめとした住民との連携を推進

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・「健幸都市いづか」関連事業参加者数
- ・特定健診受診率及び特定保健指導率

- ・地域包括ケア拠点での相談対応件数

② 拠点連携型の都市づくりの推進

交通事業者等との連携による公共交通の利便性の向上、交通結節機能の強化や利用促進などに交通事業者等と連携して取り組むとともに、平成 28 年度に策定する立地適正化計画に基づき、都市機能の維持・増進による、将来にわたる居住環境の確保・向上のため、拠点連携型のコンパクトなまちづくりに取り組みます。

【具体的な事業】

○公共交通網の充実

J R・民間バス事業者と連携し、住民ニーズを反映した公共交通網の充実

○コンパクトなまちづくりの推進

地域間の連携によるコンパクトなまちづくりを目的とした、立地適正化計画の策定及び計画に基づく戦略的な施策の推進

【重要業績評価指標(K P I)】

- ・コミュニティバス等公共交通の利用者数
- ・立地適正化計画の策定及び都市機能誘導区域の設定

③ 観光の振興、地域資源の活用

市民や関係団体と連携しながら、地域資源を活用した観光振興に戦略的に取り組み、交流人口の増大、ひいては「訪れてよし」「住んでよし」の観光都市いづかの実現を図ります。

【具体的な事業】

★観光客集客推進事業

外国人を含む観光客を対象とした、旧伊藤伝右衛門邸・飯塚オートレース場等への誘客を推進

○観光施設等保存整備事業

旧伊藤伝右衛門邸など、文化遺産としての適切な保存、観光資源としての価値向上を目的とした整備の推進

【重要業績評価指標(K P I)】

- ・観光入込客数
- ・ツアー団体件数（国内・国外）

④ 新しい時代を担う地域づくりの推進

地域づくりを主体的に行える場づくりを進めるとともに、まちづくり協議会組織の強化や人材育成などの基盤の強化を図るとともに、地域買物弱者対策を進めるなど、住みよい地域づくりの充実

を図り、安全・安心の協働のまちづくりに取り組みます。さらに、文化の振興、農産物を含めた商品のブランド化を進め、魅力あるまちづくりに取り組むと同時に、本市の魅力・住みやすさなどの情報を関係機関や民間と連携し、市内外に効果的なプロモーションを推進することで、交流人口の増大、市外からの移住及び定住の促進を図ります。

【具体的な事業】

○地域づくり推進事業

買物弱者等の課題解決のための、各地域の実情に精通した人材を配置

○マイホーム取得奨励事業

市外からの転入者を対象とした、新築・中古住宅の取得に対する助成

○住宅リフォーム補助事業

市内の施工業者による住宅改修工事費用への助成

【重要業績評価指標(KPI)】

- ・買物支援サービス等延べ利用者数
- ・自治会加入率
- ・市ホームページのアクセス件数